

出場おめでとうございます

全国九州大会出場選手激励会

10月29日および11月6日、役場庁議室において、藤本町長より出場選手へ激励費が手渡されました。大会名、出場選手名については、次のとおりです。

また、11月号でご紹介しました穴見繁さん(上鹿島)が第12回全国障害者スポーツ大会で金メダル(ビーンバツク投げ)と銅メダル(50メートル走)を獲得されました。穴見さんは、「全国大会に行けただけでも嬉しかったが、結果も残せてさらに嬉しい。」と喜びを語ってくれました。

【大会名】平成24年度ソフトバレーボール九州ブロック・フェスティバル長崎大会
 【出場選手名】地区・チーム名 濱崎 綾香さん(高塚・暁)

【大会名】第63回日本学校農業クラブ全国大会 長野大会
 【出場選手名】西村 知哉くん(熊本農業高校2年・南鹿野) 河野 隆盛くん(八代農業高校2年・西網道) 森 龍太くん(八代農業高校2年・立神)

【大会名】

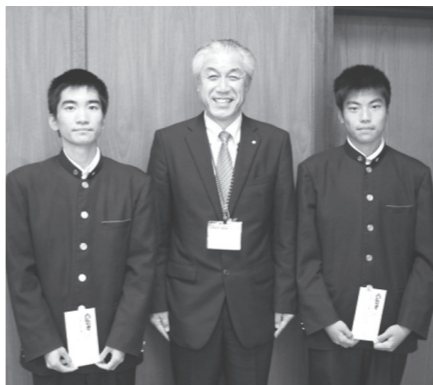
ジャパンマイコンカーラリー 2013九州地区大会

【出場選手名】

松岡 政宗くん(八代工業高校3年・町)



▲濱崎綾香さん



▲河野隆盛くん(左) 森龍太くん(右)



▲優勝を報告する穴見繁さん

祝！100歳

氷川町長寿表彰

11月2日、前日に100歳を迎えられた渡辺サエさん(吉本)に長寿のお祝いとして藤本町長より、お祝い状と花束が手渡されました。

サエさんは、大正元年11月1日生まれ。現在、入院されていますが、お元気で、娘さんは「昔から働き者で、お庭で花づくりが趣味の頑固なおばあちゃんです。」と話されました。

和やかな雰囲気の中、藤本町長が、「100歳おめでとうございます。ますます元気で長生きしてください。」とお祝いの言葉を掛けると、サエさんは「にっこりと笑顔で応えられました。」



▲家族に囲まれる渡辺サエさん(中央左)

知恵を絞り政策提言

氷川流域連携全国大学生政策アカデミー

11月3日から5日までの3日間、全国から大学生や社会人が集まり、「道の駅」電北、立神峡あちやん市場、出あい市場などの氷川流域の各拠点施設を中心に聞き取りなどの調査をし、氷川流域を元気にする政策を提言する、全国大学生政策アカデミーが行われました。

期間中は、試行錯誤の連続。その成果もあり、最終日にまちづくり情報銀行で行われた、政策提言発表会では、各チームから知恵を絞ったさまざまな政策が提言されました。

最優秀賞には、投票の結果、立神峡を担当した宮崎大学根岸ゼミチームが選ばれました。



▲発表に聞き入る参加者

町民文芸

短歌

宇宙探し生息の家アカデミー
頼らざりけり生き物の定

法道寺 本田 花風

生い茂る氷川中洲の雑草に
混じりて赤き彼岸花見ゆ

北野津 宮本 末秋

大しびき自然休養林バスハイク
八十五才の人に話かけ

高塚 桑原ゆき代

文化祭苦勞人生おみな等に
今ぞ花咲く芸能舞台

吉本 高橋 澄子

お茶の木の庭花咲きし片隅に
夕暮れたどりて秋に別れたるかな

西野津 古崎 栄子

秋深し老人施設訪問す
戦後の歌に元氣ハツラツ

西野津 古崎スエノ

外孫に氷川の味を宅配に
爺姥の心絆となれば

北鹿野 早川 博

農免に没つる夕日眺むれば
黒留袖の裾模様

南鹿野 尾崎 京子

寒ランのすつくと立てるは潔し
わが人生も斯くあらまほし

西上宮 村内 一誠

俳句

持続せぬ集中力は転記する
文字の乱れとなつて現る

吉本 橋村 正之

優勝すグラウンドゴルフ次の会
名譽の宣誓我が名を呼べり

高塚 竹中 力

黄華のはらはら散りて我もまた
一期の命悔なかるべし

桜ヶ丘 宮崎敬四郎

重なりし飛蝗も増えて陽やわらぐ
鳥たちのいつしかつつく落花生

北野津 宮本 末秋

獅子起こす玉振り少年秋祭り
吉本 高橋 澄子

八代の夜空に彩る花火舞ふ
西野津 古崎 栄子

秋道や今の数だけ色の数
西野津 古崎スエノ

北鹿野 早川 博

豊作を供に喜ぶ稲雀
北鹿野 早川 博

移りゆく時の早さよ山変りて
南鹿野 尾崎 京子

西上宮 村内 一誠

時雨る、は天の恵みや菊花展
西上宮 村内 一誠

小春日や九九の呼び声下校の子
町 香山菊童子

打ち鳴らす太鼓の響き秋祭
町 香山セツ子

菊香るグラウンドゴルフ清流会
高塚 竹中 力

国論の二つに割れて熟れ柘榴
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

桜ヶ丘 吉田 照子

坂の道転がる木の实拾えずや
桜ヶ丘 吉田 照子

町 田中 澄子

一隅をこよなく照らす石路の花
町 田中 澄子

桜ヶ丘 宮崎トシ子

捨てきれぬまま七十路ゆく冬初め
桜ヶ丘 宮崎トシ子

法道寺 本田 花風

今年、私の三大インパクト

法道寺 本田 花風

東日本大震災のあと、詩人高良留美子氏の「その声は今も」です。南三陸町役場の防災マイクで避難を呼びかけた遠藤未希さんを称え、鎮魂と新生を詩った一編の詩でした。

ベルリンフィルをご存知ですね。世界最高峰のオーケストラです。その団員は個性派ぞろい、それを指揮した佐渡裕、コンサートマスターの若干32歳の榎本大進。日本の芸術が世界を席巻しました。

光市母子殺害事件、事件発生後本村氏の慟哭はメディアを通して国民の共感を呼びました。しかし、事件結審の折には長い時間の経過の中で、彼のコメントには思想家や哲学者のように人生を深遠なものに変えさせたいように感じました。

おまえあつての

吉本 橋村 正之

今日の為にと重ねた工夫
見事に受けて止まない拍手
舞台の袖で涙拭いてた
おまえあつての此の拍手
是が最後の勝負の場だと
思案工夫で眠れぬ俺を
傍で優しく支えてくれた
おまえあつての此の受けだ
今は思い出売れない時分
三度の飯にも事欠く暮らし
そんな時でも笑顔で尽くす
おまえあつての今がある
人気なんぞは浮気なものよ
生き抜くための力を付けて
ふたりで咲かそう大きな花を
おまえあつての俺なのだ

【お詫びと訂正】

先月号、宮崎敬四郎さんの作品で誤りがありました。大変迷惑をお掛けしました。深くお詫びし訂正いたします。

【正】錫杖をついて六根清浄と
修験の嶺もすてにもみじ葉
桜ヶ丘 宮崎敬四郎

投稿いただきます作品は、短歌・俳句それぞれ一句とします。必要な場合は、ルビを付けてください。
また、確認のためお電話することもありますので、連絡先の記入をお願いします。